



## 「無形」を伝える

私は以前、生出市民センターに社会教育主事として勤務していたことがあります。

生出地区（太白区茂庭）には、古来より伝わる囃子や神楽等の無形民俗文化財があり、地域を愛する人々の献身的な活動により、現在まで脈々と受け継がれています。当初は市民センターの業務として関わっていましたが、彼らと接するうちにその活動に共感し、個人のボランティアとして活動支援に携わるようになりました。現在も、お囃子のCD制作等に携わっています。

**（※裏面参照）**

無形民俗文化財の「無形」とは、物体としての「有形」に対して、風習や動作・技術などを指すものであり、形が無い、或いは、形が変わってよいという意味ではありません。伝承、保存活動に携わっている方々は、先人の思いを受け継ぎ、先輩の技を学び、時には盗むようにしながら、何とか形を変えずに後世に伝えようと日々努力なさっています。長い時を経て少しずつ変わっていくことはあっても、決して無造作に形を変えようとはしません。そこには、郷土に息づく誇らしい記憶を伝えようとする謙虚さを感じます。

伝統芸能に限らず、過去から未来へ、大人から子供へ伝えていくべきことはたくさんあります。学校はその一翼を担い、子供たちに対する教育活動に取り組んでいます。教科指導も文化の継続発展のために大切なことであり、学校の本務の一つですが、それ以外にも、言葉遣いや挨拶、礼儀作法などの美しい生活習慣や、お互いに思いやる心などの精神面の豊かさなど、いわば無形の文化を伝えることも必要です。ただ、これらは、学校での指導だけでは限界があります。各御家庭それぞれの判断と責任で人間としての美しさを身につける指導、すなわ「躰」も欠かせません。

美しい習慣や価値観や理想など、各御家庭にある「無形」ものを、ぜひ真剣に子供たちに伝えていってください。

..... 切り取り線 .....

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年7月9日（ ）年（ ）組 児童氏名



## 「坪沼祭囃子」

レコーディング 2000年 7月4日

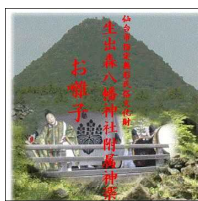
※2003年4月 それまで途絶えていた幻の囃子の復元に成功。再リリース。

演奏 坪沼祭囃子保存会

監修 坪沼八幡神社宮司 高山 亮栄 高山 晃和

制作 小崎 功二

仙台市の西南部、坪沼地区に古くから伝わる祭囃子。伝説によれば、平家の落ち武者が伝えたという。伝統を受け継ぐ地域の名手たちが演奏する悠久の笛と太鼓の調べ。



## 仙台市指定無形民俗文化財

## 「生出森八幡神社附属神楽 お囃子」

レコーディング 2000年 10月29日

演奏 生出森八幡神社附属神楽 神楽師会

制作 小崎 功二

生出森八幡神社附属神楽は、名取市高館にある熊野神社を經由して伝わった出雲系の榊流神楽である。神饌を供えての祈祷の舞が中心で、歌謡や台詞は省かれ、まるで黙劇のようである。

舞は14幕あるが、お囃子は4種類の旋律を舞によって構成を変えて演奏する。舞の演技時間は3時間近くになるため、このCDは神楽師の方々に舞ごとのお囃子の要点を再構成していただいた演奏を録音したものである。また、パッケージを含めて、生出森八幡神楽への理解を助ける資料となるCDに仕上がっている。



## 資料映像 DVD (2006年2月リリース)

<収録映像>

1. 「元朝神楽」
2. 「太白区伝統芸能祭」
3. 「宮城県民俗芸能の集い」
4. 「結婚式」
5. 「里宮祭」
6. 「CDレコーディング風景」



## 国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産

## 「秋保長袋の田植踊 唄とお囃子」

レコーディング 2002年 1月19日

演奏 長袋の田植踊保存会

制作 小崎 功二

秋保長袋の田植踊は、その昔、長袋に落ちのびて住みついた平家の落人たちが昔日を慕って始めたものと伝えられている。大太鼓に元禄二年(1689年)の紀年銘があり、起源はそれ以前に遡るものと考えられる。五穀豊穡を願う田植神事や田遊びを舞踏化したもので、小正月に村の家々を回って、その年の豊年を祈るために行われていた。現在は4月の神明社祭典やお盆に演じられている。手づくりの花笠をかぶり紋付の長振り袖を着た早乙女たちが、扇、鈴、銭太鼓、ばちなどを踊りの変わり目ごとに持ち替えて、優美な踊りを繰り広げる。このCDは、今回、踊りごとに奏でられる唄とお囃子を録音したものと、最近発見された昭和8年の録音2曲を合わせて1枚の作品に仕上げたものである。



## 資料映像 DVD (2009年2月リリース)

<収録映像>

1. CD制作プロジェクト(録音風景)
2. 「太白区伝統芸能祭」での演技